

鶴見区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	鶴見区地域子育て支援拠点事業
対象期間	平成30年度～令和4年度(5か年)
事業の実施者	社会福祉法人 青い鳥
	鶴見区子ども家庭支援課
実施目的	<p>1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。</p>
実施時期	令和4年8月
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。</p> <p>毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。</p> <p>今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」にその後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p>
	<p>【参考】 拠点の7事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関する事(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関する事(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関する事(ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関する事(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関する事 (横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関する事(利用者支援事業)

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・これまで、拠点に来所している利用者からのニーズ把握は行ってきたが、拠点を利用していない人も含めた鶴見区全体のニーズ把握が課題である。 ・把握した鶴見区のニーズを区と拠点で共有し、ひろば運営へ反映できるよう検討していく。 ・多様な生活背景の養育者と子どもが利用しやすい場になるよう、情報提供等の工夫を考えていく。 ・拠点を含め、区全体で幼児(3-5歳)の居場所について検討していく。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		B	B
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

○年間利用者数(人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
わっくんひろば	23,375	22,898	20,741	17,050	8,633	10,405
サテライト	-	14,071	14,923	11,959	7,749	8,808
合計	23,375	36,969	35,664	29,009	16,382	19,213

サテライト開所により、立地の市場矢向地区を中心に利用者数が大きく増加した。
 令和2年度はコロナ禍で閉館や制限付き開所の時期があったが、12月より予約なし(人数制限付き)で開所した。

鶴見区全区アンケート結果(令和元年度実施、区内全域2,349件)

拠点の認知度	わっくんひろば76%(区内全域で認知度が高い) サテライト42%(矢向、市場地域での認知度が高い)
拠点の利用度	わっくんひろば48%(区内全域で利用が多い) サテライト21%(矢向、市場地区での利用がほとんど)
子育て支援施設を利用しない理由	「一人で行きにくいから」「家が遠いから」「時間がないから」「人と接するのが苦手だから」等

拠点利用者アンケート結果(毎年実施 以下は令和元年度実施内容、わっくんひろば156件 サテライト161件)

利用の満足度(とても満足、満足)	わっくんひろば98% サテライト99%
利用してよかったこと	1位:子ども同士の遊び 2位:スタッフとの会話 3位:他児の様子を見られた 4位:親子の交流
利用することで気分転換ができた	わっくんひろば96% サテライト100%
スタッフは話しやすい雰囲気である	わっくんひろば100% サテライト100%
スタッフや出会った保護者との交流を通して、子育てに役立つことがあった	わっくんひろば95% サテライト96%
子どもの成長をイメージできるようになった	わっくんひろば93% サテライト95%

実施イベント(令和元年度実績 わっくんひろば、サテライト合わせて記載、)

保護者の交流を目的としたイベント	双子の会(3回)、アラフォーママの会(4回)、25歳以下のママの会(2回)、未熟児の母の会(2回)、赤ちゃんあつまれ(11回)、しゃべり場わっくん(2回)	
令和3年度以降追加実施イベント	初来所者のつどい「はじめてわっくん月3回、ダウン症児親の会(毎月)、発達に気になる子の親のつどい(毎月)	
妊娠前から切れ間なく参加できるイベント(毎月開催)	マタニティ向け	こうのとりにくらは又は親になる前準備教室 はんどめいどくらぶ(随時開催、マタニティと0歳児の保護者)
	4カ月まで	赤ちゃん体操とママピクス タッチケア
	4カ月から10か月ぐらいまで	ベビーマッサージ
	0~1歳児中心に	手遊びわらべうたの会
	0歳児~大きいお子さんまで	絵本の読み聞かせ
1歳前後から大きいお子さんまで	ちっちゃな人形劇 工作の会 わっくんあそびクラブ	
その他のイベント	コンサート(3回)、クリスマスおはなし会(1回)、ひな人形、五月人形撮影会(1回)、おもちゃドクター(2回)	
アウトリーチ事業	出張ひろば「わっくんひろばがやってきた」(令和3年度 17回実施 参加者508名)	
オンライン事業	「オンラインベビーマッサージ」5回、「オンラインひろば」11回(令和3年度)	

1 温かく迎えられ、また訪れたいくなる、交流が広がるひろば

- 繰り返し利用する中で交流が広がっていくひろばづくりを心がけた。ニーズに合ったイベント情報の提供をして、再来所へとつなげている。一人でも利用しやすいように、大人向けの本や雑誌、漫画などを整備した。
- 幼児(特に3-5歳)が安全に遊べるように、エリア分けを明確にしたレイアウトに変更した。
- 同じ悩みを持つ親の交流のきっかけを作るイベントを継続的に開催した。
- 利用者とボランティア(学生、子サポ提供会員、イベント講師など)も交流し、地域の活動を知る機会となっている。

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

2 多様な人が、それぞれの時間を過ごせるひろば

○外国につながる親子のための取り組み

- ・来所時、翻訳機などを利用して丁寧な対応を心がけたことで、継続的に来所し、友人への紹介につながった。
- ・遊びを通じて簡単な日本語を学ぶイベント「おやこにほんごたいむ」を国際交流ラウンジと共催、ボランティアも参加して拠点で開催した。(3回)その後、国際交流ラウンジ主催の親子向け日本語教室の拠点開催へと発展し、利用者へ両施設の相互利用を促した。

○ひとり親家庭等への取り組み

- ・子育て以外の母親自身の悩みを相談しやすいように、女性相談を隔月で実施し、相談を目的とした来所も見られている。
- ・利用のきっかけ作りとして、ひとり親サポート横浜と共催で「ひとり親サロン」を拠点で開催した。同機関と連携を深め、相談対応に役立っている。
- ・経済的に困窮しているご家庭に対して、子ども食堂やフードパントリーに関する情報について提供している。

○妊婦とそのパートナーへの取り組み(新規 一部継続)

- ・母子手帳交付時、両親教室で拠点のPRを実施し、妊婦の利用が増えている。
- ・妊婦とその家族向けのイベントを毎月実施している。参加者の多くが、産後も拠点を利用している。本イベントのノウハウを活かし区の「親になる前準備教室」を受託した。
- ・ひろばにマタニティコーナーを設け、書籍の貸し出しや情報提供を行い、妊婦が複数回来所している。

○父親へ向けた取り組み

- ・区内市立、私立保育園の協力を得て、男性保育士によるパパ講座を実施し、父親同士が交流する中で相談事業につながった。
- ・父親のひろば利用が増え、子育て相談も増えている。

3 ニーズを把握するために

○ひろば利用者アンケートだけでなく、区と共に全区アンケートを作成、実施し、子育て世代のニーズ調査を行った拠点利用のない養育者の現状も把握でき、関係機関と共有し、拠点運営に生かした。

○ひろば利用者アンケート(10~12月)にて、拠点利用のニーズ調査を毎年行い、拠点利用により、親同士の交流が進み、得た情報をもとに地域の居場所を利用した様子を把握し、事業の効果が確認できた。求めるイベントや講座のニーズを把握し事業に反映した。

4 子どもとの過ごし方を体験しながら、親子が育っていくひろば

○スタッフが何気ない声掛けで、利用者同士の交流が進み、お互いが支えあう姿がアンケート結果にも表れている。

○幼児(特に3~5歳)向けに、工作の会を開催し好評を得ている。また、区内90か所の公園を取材し、その情報をSNSなどで発信している。他にも子育てサークル、子育てサロンなど幼児が利用しやすい地域の遊び場情報の提供を行っている。

☆5 拠点を利用しない親子へ向けての活動(新規)

○拠点における遊び、情報提供、相談を公園で行うアウトリーチ事業を実施した。地域の関係者と共に、近隣の子育て支援情報の提供ができた。区の地区担当との会議で地域の特性の理解につながった。活動により親子が孤立しがちな地域を知り、そのエリアの小さな公園を移動して情報提供する事業も実施した。【説明1】

○ひろばに来所しにくい親子へ向けて、オンライン事業(オンラインベビーマッサージ、オンラインひろば)を実施し、その後の利用につながった。

評価の理由(区)

○ 拠点との定例会やスタッフミーティング等で定期的に意見交換を行い、来所者への対応を一緒に考えることができた。また、地区別情報シートを基に意見交換を行い、地域の特性に応じた居場所づくりについて検討することができた。今後は、この検討内容を踏まえ地域の特性に合わせた取組(外国人支援、共働きが多い世帯等)を推進していく必要がある。

○ 拠点から距離が遠いエリアの公園に出向き、拠点の活動の周知等を行うアウトリーチ事業については、随時相談・報告を受けながら、取組を進めることができた。

○相談の拡大に向けて公園以外(養育者が集まる場所)のアウトリーチ事業の展開も期待したい。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・初来所者が安心して利用でき、イベントなどを通して親同士の交流が深まり、継続利用につながっている。また、様々な内容の講座が好評に続き、利用者に学びの機会を提供し、情報提供、相談へとつながることができた。
- ・妊婦に向けた周知活動や妊婦向けのイベントを実施し、妊婦とその家族の利用が増えた。
- ・拠点を利用しない親子に向けて、アウトリーチ事業やオンライン事業に注力し、拠点や地域の居場所の利用へつなげている。(新規)
- ・多様な生活背景の養育者と子どもが利用しやすい場になるように、関係機関との連携を深めている。
- ・サテライトは開所7年目を迎え、様々なイベントに取り組んだことで、多くの利用者が得られ、地域に密着した居場所として機能している。

(課題)

- ・多様な生活背景の養育者と子どもが孤立しないよう改めて周知活動を強化する。また関係機関との連携をさらに進め利用のきっかけづくりを工夫する。

振り返りの視点

ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。

イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。

ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。

エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。

オ 把握されたニーズを区子ども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。

カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。

キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気づき、学ぶ機会を提供する場となっているか。

ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・育児支援センター園、親と子のつどいの広場、乳幼児一時預かり事業実施施設を中心に連携体制の構築ができつつあるが、今後、養育者をより広く多様な関係機関に繋げていけるよう、さらに検討していく。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

○相談件数(件)

	平成28年度*1	わっくんひろば				サテライト				合計			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
ひろば相談	4039												
個別相談	308	3,408	3,252	2,471	3,986	4,001	3,619	2,680	3,485	7,409	6,871	5,151	7,471
アウトリーチでの相談*2	—	195	168	103	96	247	687	786	692	442	855	889	788
専門相談*3	308	—	—	—	75	—	—	—	—	—	—	—	75
発達相談	11	310	241	152	111	274	219	153	90	584	460	305	201
女性相談*4	—	11	19	15	10	—	—	—	—	11	19	15	10
		—	8	4	6	—	—	—	—	—	8	4	6

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためイベントやひろば開催中止(令和元年)

- *1 平成28年度(2期目)サテライト開設前
- *2 令和3年から実施のアウトリーチ事業「わっくんひろばがやってきた」での相談件数
- *3 助産師、保育士、保健師、歯科衛生士、栄養士、保・教員コンシェルジュ、看護師
- *4 NPO法人かながわ女性のスペースみずら 令和元年4月～

鶴見区全区アンケート結果(令和元年度実施、区内全域2,349件)

子育てを相談する相手	1位:家族92.9% 2位:友人76.8% 3位:保育園15.8% 4位:拠点12.5% 5位:子育て支援者10.6% 6位:SNSインターネット10.6%
不安を感じたり悩んでいること	1位:自分の時間がない38.1% 2位:しつけ28.3% 3位:兄弟児の育児22.4% 4位:入園21.9% 5位:発達・発達21.4%
子育て支援施設を利用しない理由	「一人で行きにくいから」「家が遠いから」「時間がないから」「人と接するのが苦手だから」等

拠点利用者アンケート結果(毎年実施 以下は令和元年度実施内容、わっくんひろば156件 サテライト161件)

スタッフと話しながら、子育ての相談をすることができましたか?	わっくんひろば95% サテライト96%
自由記載	「スタッフと話しやすく些細なことでも親身に聞いてもらえて相談できた」、「専門相談で個人的に話が聞けた」、「気軽に安心して相談できるのがよい」、「必要な情報が得られた」等

実施イベント(令和元年度実績 わっくんひろば、サテライト合わせて記載、)

保護者向け講座	パパ講座(区内男性保育士 2回 親子遊びや座談会)、助産師講座(4回、離乳食、卒乳、赤ちゃんとの暮らし)、発達講座(医師 2回、子どもの発達、言葉の発達)、保育所入所説明会(区主催)、こどもに伝わるコミュニケーションコツ講座(区主催)
専門家によるミニ講座	看護師、保育士(毎月開催)、消防士(令和元年まで)

○スタッフの相談スキルの向上のための研修「傾聴講座」「相談対応の基本」や「法人スーパーバイザーによる事例検討」等

1 安心して気軽に話せるひろば相談

○気軽に相談できる場の周知

- ・利用者に、拠点ではスタッフによる相談、専門相談、横浜子育てパートナーによる相談や電話相談ができることを丁寧に説明している。
- ・不安を感じたり、悩んでいることを、どの相談で話せばよいのかを、案内している。
- ・横浜子育てパートナーの周知活動や出張相談をきっかけに、ひろばでも相談できることを知り、初来所につながっている。

○丁寧な相談対応の実施

- ・ひろばやその帰り際、イベントの後、情報提供などの様々な場面で相談を受けている。スタッフは、相談者に寄り添い、傾聴に努めている。
- ・相談内容や状況によっては、相談場所や子の見守りなどの環境整備、スタッフの配置を工夫し、安心して相談できる場を作っている。
- ・アウトリーチ事業「わっくんひろばがやってきた」で、出張相談を実施し、拠点から遠い地域での気軽な相談と情報提供が好評を得ている。
- ・妊婦やそのパートナーの来所が増え、相談につながるケースが増えている。
- ・育児休暇取得やテレワークによって、父親の来所が増加し、悩みながら子育てをしている様子が見られるため、父親のための相談日を土曜日に設け、きっかけづくりに努めている。
- ・付き添いで来所した祖父母との交流も大切にし、家族からも相談しやすい雰囲気を作っている。

○相談内容後の検討

- ・相談に対して適切な情報提供ができるように、内容の振り返りを行っている。
- ・法人での検討会、法人研修、外部研修への参加等、専門相談の講師との交流により、すべてのスタッフが相談スキルの向上に努めている。

様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

2 ひろば相談から連携へ

○専門相談の実施

気軽なひろば相談から、より詳しい情報提供につながるように、拠点で専門相談を継続して実施している。

- ・専門相談は、ひろばでの気軽な子育て相談として好評を得ている。
- ・ひとり親等の女性に関する相談に対応するために、「女性相談」を隔月で実施した。就労中の方も相談できるよう土曜日も設定し、子育て以外の相談ができる場として機能している。
- ・法人の特性をいかした発達相談を実施した。
- ・気軽に参加できるひろば型講座を、ひろばで相談が多い離乳食、発達、トイレトレーニング、子どもとの接し方、しつけといった内容でテーマで実施した。

○関係機関との連携

- ・利用者支援、横浜子育てサポートシステムの紹介、わっくんひろばとサテライト双方の情報提供を通して、継続的な利用が見られている。
- ・子育てパートナーが加わったことで、区、関係機関と双方向の連携が強化され、さらに多面的な支援が繋がった。

評価の理由(区)

- 拠点と区の定例会や母子保健コーディネーターとの定例会を通じて、個人情報取り扱いの確認や養育相談に関する情報共有、対応方法に関する検討を行うことができた。
- あらゆる機会を通じて、子育て制度や地域資源情報の共有を拠点スタッフと行うことができた。
- 拠点のスタッフミーティングの場で定期的に研修会や区との意見交換を行い、拠点スタッフの相談対応力向上を行うことができた。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・スタッフミーティングなどで区との連携が強化され、相談内容に応じて、相談者にとって必要な支援にスムーズにつながれるようになった。
- ・拠点のネットワーク事業や利用者支援事業を通して、鶴見区全体の子育て資源と連携し、養育者をより広く多様な関係機関に繋げていくことができた。それぞれの現場での経験や課題を学びあい、地域全体の相談スキルの向上につながっている。
- ・共通の悩みを持つ親同士の交流の会を実施し、親同士のピアサポートの場となり、スタッフや支援関係者がそれを支えている。(新規)

(課題) 多様な養育者に対応するために、引き続きスキルアップに努める。

振り返りの視点

ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。

ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。

エ 区こども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。

オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区こども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。

カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	養育者がもっと自由に情報を提供していくために(有料のイベント情報なども含め)、一定のルール作りが必要と思われる。 ・多様な生活背景を持つ養育者のニーズを把握し、必要な情報を提供していく。 ・情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みづくりをしていく。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	B
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

- ホームページ改訂:スマートフォンからの見やすさを改良、地域別子育てカレンダー新設(外部からの入力、更新可能)ひろば案内を6か国語で掲載、イベント欄表示の見やすさを改善、Twitter、Instagramをトップ画面に配置
- Twitter、Instagramからの発信(令和2年度~)
- 鶴見区全区アンケート結果(令和元年度実施、区内全域2,349件)

子育てに関する情報の入手経路	1位:家族、友人、知人 2位:インターネット 3位:拠点のひろば掲示板やスタッフ ……10位:わっくんひろばのホームページ
----------------	---

- 鶴見区地域子育て支援に関するアンケート(令和3年度実施 区内全域518件)

子育てに関する情報は何を使っていますか?	1位:鶴見区ホームページ 2位:鶴見区子育て応援ガイドブック 3位:その他(1位:インターネット 2位: SNS) 4位:広報よこはま鶴見区版 5位:わっくんひろばホームページ 6位:つるみまっつぷ 7位:わっくんひろば内の掲示物等 8位:わっくんひろばのSNS
必要な情報はどのような情報ですか?	1位:遊び場 2位:預け先 3位:保育園、学校関連 4位:その他 5位:相談先 6位:医療関連 7位:イベント

- 拠点利用者アンケート結果(毎年実施 以下は令和元年度実施内容、わっくんひろば156件 サテライト161件)

わっくんひろばで、子育てに役立つ情報が得られた	わっくんひろば 95% サテライト95%
わっくんひろばを利用して、地域の情報(子育てサロン、園庭開放、遊び場等)を知ることができた	わっくんひろば85% サテライト84%
わっくんひろばで紹介された情報で、地域の遊び場などにいった	わっくんひろば51% サテライト65%

1 拠点から地域へと広がる情報

- 拠点の各事業の発信
 - ・隔月発行の「わっくんひろばからのおたより」やSNSを利用して、イベント情報、イベント以外にもひろばでできること(絵本の貸し出し、リサイクル品の授受、相談、子育てサポートシステムの説明会、地域情報取得など)をわかりやすく伝え、それぞれの目的に合った利用につながっている。
 - ・「わっくんひろばってこんなところ」(拠点の様子を視覚的に伝えるチラシ)を作成し、地域イベントなどで配布し拠点の様子を分かりやすく伝えている。
- SNSによる発信の強化
 - SNSやホームページの地域別子育てカレンダーで、拠点だけでなく地域の子育て情報も提供できるよう枠組みを作った。
 - ・Twitter、Instagramを開設し、拠点や地域のイベントのタイムリーな情報発信と、ひろばの様子をわかりやすく伝えることに役立っている。合わせて地域の情報を活用できるように、関係機関のSNSを積極的にフォローした。(新規、一部継続)
- ひろばでの地域情報提供の工夫
 - ・目的別に資料を配架し、利用者がスムーズに情報収集できるようになった。
 - ・保育園の園庭開放の情報は、保育園の子育て支援事業の周知に役立っており、外遊びはじめなどのきっかけになっている。
 - ・子育てサロンは、取材に向き、担い手との関係を深めながら情報収集を行っている。活動の詳細を把握することで、養育者のニーズに合わせた情報提供ができています。
- 多様な背景の養育者へ向けた情報提供
 - ・ひとり親サポート横浜、NPO法人との連携して情報を収集し、多様な背景の養育者が情報を手に取りやすいよう配架を工夫した。
 - ・区役所の児童扶養手当現況届の際に、拠点のPRチラシや女性相談、地域の食糧支援のチラシの配架した。
 - ・国際交流ラウンジとの連携を強化し、外国につながる親子向け情報が充実した。またホームページのひろば案内の6か国語版を掲載した。同ラウンジのWEBニュースに拠点紹介の掲載した。(新規)
 - ・民間の療育関連施設の情報を集約し、ファイルを作成し、必要な利用者に提供できるように努めた。
- 拠点以外の場所でも情報に出会えるようにするために
 - ・区内各所で配布する「つるみ区子育て応援ガイドブック」を区と共に製作し、配布に努めた。(新規)
 - ・様々な担い手や関係機関へ向けて情報提供を行った。
例:母子手帳交付時、両親教室、こんにちは赤ちゃん訪問、赤ちゃん会、子育て支援者会場、子育て支援者定例会、子育てサロン、病院、育児支援イベントなど。
 - ・育児支援イベント(区内7地区で保育園が実施)では、こどもとの遊び方など必要とされる情報を検討し、保育士と共に情報提供している。
 - ・アウトリーチ事業で地域の公園に出向き、子育て支援関係者と共に、その地域のイベント情報を直接伝えることができた。(新規)

様式1-3 地域子育て支援拠点事業評価シート

2 区民への認知の強化

○わっくんひろばからのおたよりの新規配布先を開拓し、毎月配布している。例：地域の産婦人科、生活協同組合、障がい者地域活動ホームなど。

○拠点から遠い地域の大型商業施設や区内の祭り等のイベントで、普段拠点を利用していない層へ向けての情報提供を行った。

3 養育者による情報提供と発信

○ひろばの掲示板にリサイクル、利用者主催イベントなどの養育者の情報を掲示した。

○養育者や区民から提供された情報を、安心して利用できるようルールを作ったうえで、ファイルとして作成し、公的な内容以外にも地域の様々な情報を自由に閲覧できるようにした。

○子育てサークルの周知活動を強化している。「つるみ区子育て応援ガイドブック」への掲載、新たな周知チラシによるPR活動、ひろばでのサークル周知活動への協力、SNSによる発信により、広域での周知につながっている。

○利用者から幼稚園情報を収集しファイルにして掲示している。

○NPO法人の情報収集提供活動をサポートしている。

評価の理由(区)

○ 拠点、NPO法人、区と連携をしながら、「つるみ子育てガイドブック」を毎年更新を行うことができた。また、子育て情報に関する区民ニーズを把握するため、令和3年度には広くアンケート調査を行い、今後の子育て情報に関する方向性を検討することができた。今後は、この結果を踏まえ、対策を講じる必要がある。

○ 上記ガイドブックや鶴見福祉保健センターからのお知らせ等で区民に広く周知することや地区担当保健師による育児教室、乳幼児健診等の場でも個別のニーズに合わせた周知を行うことができた。さらには、地域福祉保健計画の各地区別の取組の中で、拠点の役割や周知を行い、地域の関係機関とのつながりを促す取組を行うことができた。

○ 対象月齢の9割以上の方が来所する乳幼児健診の会場にて、月齢に併せた子育て情報をまとめた情報ブースを作成することを予定している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・紙媒体以外で発信できる環境を整備することにより、より多くの養育者に情報提供する仕組みができた。
- ・区全体の子育て支援ネットワーク構築により、情報の収集、提供先が拡大し、養育者へ提供できている。
- ・拠点内外で養育者が情報収集、提供に関わる仕組みができてきた。
- ・より多くの養育者に情報提供をするために、SNSを利用した更なる情報発信に取り組んでいる。

(課題)

- ・拠点が子育て支援の情報集約、提供の中心であることが認知されるよう、さらに努める。
- ・地域の子育て支援に関わる多様なSNS情報を、効果的に案内できるような仕組みづくりを行う。
- ・関係機関と共に情報の多言語化について検討する。

振り返りの視点

ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。

イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。

ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。

エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。

オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。

カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。

キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	(課題) ・拠点と個々の関係機関とのつながりは構築されてきたため、次期は拠点を中心とした区全体の関係機関のネットワーク構築が課題である。	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)	
○実施したネットワーク会議(毎年)	
つるみ子育て支え合いネットワーク会議	8団体 (令和2年度以降はオンライン開催)
子育てサロン(つるみ・ふらっとる一む)ネットワーク会議	子育てサロン50団体所属(令和2年度以降は書面開催)
鶴見区子育て支援ネットワーク会議	31団体(令和2年度は書面開催、令和3年度は中止)
○実施した鶴見区子育て支援ワークショップ	
平成31年1月	プレ開催 鶴見区の現状をふまえた、発達障害の親子サポート「気になる子」に寄り添う/講師:地域活動ホーム幹
平成31年3月	第1回「鶴見区における 外国に関わる親子の現状について」/講師:鶴見国際交流ラウンジ
令和元年11月	第2回「バルーンアート講習会」/講師:つるみ区民活動センター、ボランティア団体
・令和2年1月	第3回「外国につながる親子について語り合おう」/講師:鶴見国際交流ラウンジ、ボランティア

○鶴見区子育て支援拠点NEWSを年1回発行、関係機関に送付

1 ネットワークの充実

○つるみ子育て支え合いネットワーク

常設の場を持つ団体で課題の共有、運営の情報交換を目的に、年1回ネットワーク会議を開催(平成24年開始)している。会議以外でも、相互見学会開催、し、互いが助け合える関係を築いてきた。共有した課題を鶴見区子育て支援ネットワーク会議で報告した。コロナ禍では、オンラインで会議を継続し、子育ての現状について共有した。

○子育てサロン(つるみふらっとる一む)ネットワーク

・平成30年度よりつるみふらっとる一むネットワーク会議を年1回開催し、情報交換を行い、サロン同士のネットワーク強化を図っている。
・令和2年度より、潮田地区の子育てサロン交流会に毎年参加している。

○保育園とのネットワーク

・育児支援センター保育園と年一回会議を行っている。
・全保育園が参加して開催される育児支援イベント(区内8地区で実施)に参画している。

○障害に関わるネットワーク作り

発達に心配を抱えた親子を多くの区民や機関が協力し合って支援できるように、地域活動ホームや地域ケアプラザと連携し「発達が気になる子の親のつどい」を拠点で毎月開催することができた。(新規)

○他機関・団体とのネットワークに参加することで、子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に努めた。

○NPO法人つるみままっぷとの連携

・NPO法人つるみままっぷ(養育者の目線で作成した地図「ままっぷ」の日本語版、中国語版、英語版、幼稚園ガイドブックを発行する現役の母親グループ)の事業をサポートし(発行物の地域への送付、背守りの会)、養育者の想いを拠点事業を通して区民に届けることができた。

○つるみ子育て個育ちフォーラム

年1回のフォーラムに参画し、多くの民間団体と情報共有している。今年度より3地区の開催が始まり、拠点が1地区を担う予定。

○全体ネットワーク 鶴見区子育て支援ネットワーク会議の開催

事業の紹介を通して顔の見える関係づくりに努め、参加者が、区内に様々な子育て支援の場があることを再確認する機会となった。地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしている。

2 養育者を地域につなぐ活動

・ネットワークを通して、多くの子育て支援情報を得ることができ、顔の見える関係から得た生きた情報として養育者に届けることができた。
・アウトリーチ事業(外遊び事業)で、関係機関の協力を得て情報提供ができ、養育者を身近な支援の場につなげることができた。
・民間団体とのネットワークが充実し、子育て支援活動に関心のある養育者や区民に、子育てサロンやNPO等の活動をつなぐことができている。

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- コロナ禍で開催できない年もあったが、鶴見子育てネットワーク会議を拠点とともに開催し、関係機関の顔の見える化や一時預かりに関する課題等について、共有・検討を行うことができた。今後は、コロナ禍でも推進できるようにするため、オンライン開催も検討し、継続的に部分ネットワークとの関連性も意識しながら、子育てネットワークの強化を進めて行く必要がある。
- アウトリーチ事業を効果的に実施できるようにするため、拠点の利用の少ないエリアの地区の情報等を共有することや事業内容の助言、地区担当保健師の当日参加を行うことができた。また、本事業を通じて地域の保育園等との情報共有や関係づくりを進めることができた。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・子育て支援ネットワーク会議を毎年開催することができ、区全体の課題の共有の場となった。

・拠点のひろばで見てきた子育ての現状や課題を、部分ネットワークで意見交換して確認し、鶴見区子育て支援ネットワーク会議において提言することで、養育者の声を、関係機関に届けることができるようになった。

・民間団体のネットワークに参画し連携を深めることで、養育者や子育て支援に関心のある方にそのニーズに合った様々な活動を紹介することが可能になった。

・養育者が身近な場所で子育ての支援を利用できるように、地域の子育て資源の機関と連携して情報提供を行い、養育者を身近な支援の場につなげることができた。

(課題)

・養育者が地域の子育て資源を有効に利用できるように、関係機関と拠点が相互に紹介しあえる関係づくりに努めていく。

・今後も、活動の現場で見てきた課題や区が把握している子育ての課題を積極的に鶴見区子育て支援ネットワークへ届け、それを共有し解決に向けた取り組みを継続する。

振り返りの視点

ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。

イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしている

ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧を受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています。	●子育てサロンの課題の把握・共有を区全体で進める。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。	●サークルの支援を区中心から拠点中心へ移行し、ネットワークを活用してサークル支援を協働ですすめていく。	B	B
③広く市民に対して、子育てで家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。	●拠点の利用者が、様々な拠点の運営に協力してもらえる工夫をする。利用者がボランティア活動に参加できるきっかけ作り(ひろばの外国語ボランティアなど)。	B	B
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)	
わっくんボランティア登録人数	(通算72名) 活動実績(令和元年度21件参加者7名)
わっくん託児サポーター	登録人数(23名:令和元年度) 活動実績(9件:令和元年度)
学生実習受け入れ	(62名:横浜実践看護専門学校、関東学院大学教育学部 他4校、平成30から令和元年度実績)
学生ボランティア受け入れ	(18名:市立東高等学校、鎌倉女子大学)(令和元年度)
子育てサークル支援事業	地区別交流会(3回) 全体交流会(1回) サークルフェア 新規立ち上げサポート(2)(令和元年度実績)
子育てサロン支援事業	つるみ・ふらっとる一むネットワーク会議 鶴見子育て支援ワークショップ(平成31年3月/令和元年11月/令和2年1月) 「担い手さんのためのかんたん工作ミニミニ講座」(令和元年度) ふらっとる一む通信 発行(第5号発行済)

※コロナ禍のため、令和2、3年はボランティア、実習受け入れ中止。

1 担い手を支える活動

○積極的に周知活動を支援し(拠点ホームページへの掲載、拠点や地域での情報提供など)、養育者を子育てサロンへつなぐことができています。
○ネットワーク会議を開催し、担い手同士のつながりづくりを支援し、課題や解決方法について情報交換を行った。イベント実施に課題が多いことを共有し、「鶴見子育て支援ワークショップ」や出張講座「担い手さんのためのかんたん工作ミニミニ講座」を開催し、活動をサポートした。
○アンケート(年1回)を実施し、活動状況の把握に努めている。ニーズに応じて訪問して現状を把握し、上記会議や通信を利用して、課題解決のサポートを行っている。また、子育てサポートシステム出張入会説明会や出張相談を実施し、子育てサロンの活性化をサポートしている。

2 地域活動の大切さを伝え、自主的な参加のきっかけづくり

○新規サークルの立ち上げ支援として、養育者が立ち上げた1歳児サークル「ひまわりくらぶ」のサークル化及びその後のサポート、多胎子育てグループ「リトルツインズ」のサークル化及び運営のサポートを行った。
○既存のサークル活動を支援するために交流会やチラシの掲示を行うことで、サークルに関心を持ってもらうよう周知活動を行った。「サークルに入ろうキャンペーン」や「サークルフェア」を開催した。
○拠点で活躍するボランティア
ボランティアを募集することで、地域で子育て支援に関心を持ってもらい、拠点を中心とした活動する場を提供している。また、外国につながる利用者をボランティアとして参加してもらうことで、利用者の拡大を図った。
○利用者から開催希望があった場合、企画や実施に協力したことで、養育者中心でのイベントを開催することができた。

3 子育て家庭を温かく見守る地域

○近隣地域の住民や子どもたちとの交流を図っている。
地域住民と共に子育て家庭を見守る関係性を築くため、地域の防災訓練や小学校の生活科の学習に参加することで地域との連携を図った。企業実習を受け入れることで、子育て中の親子への理解を深めてもらうことができた。

4 若い世代と共に子育てを考える活動

○学生研修・学生ボランティア
・学生がイベントやひろばの見守りボランティアを務め、親子とふれあうことで、地域の子育てや子育て支援について学ぶ機会を得ている。
・ボランティア活動を通して高等学校との連携ができ、家庭科の子育ての授業を担当し、学生に子育ての大変さ、父親の子育て参加、拠点の役割を伝えた。保育を目指す生徒へ向けた授業の企画を受け、地域の助産師や近隣のつどいの広場を紹介することができた。

評価の理由(区)

○ 子育て支援者事業により地域が活動する子育てサークルの支援を継続した。
○ ふらっとる一むや子育てサークル、集いのひろば等の地域活動の現状や課題を随時、拠点と共有し、特にコロナ禍における運営上の課題や各活動のノウハウの共有を行うことができた。今後は依然と続くコロナ禍における、運営に関する人材不足や活動内容に関する更なる検討と対策が必要である。
○ 鶴見区子育てネットワーク会議の開催を通じて、地域の活動に従事する人材の育成や協働の機運を高めるための仕組みづくりの土壌を作ることができた。今後は、これらを継続的に発展させていく取組が必要である。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・子育てサロン支援が充実した。アンケートによる課題の把握、ネットワーク会議による区全体の課題共有が可能となった。
- ・子育てサークルの支援を、子育て支援者と共に活動し支援の在り方について検討できた。
- ・元利用者や地域の方がボランティアとして登録し、様々なイベントで活躍している。
- ・教育機関との連携により、高校の授業担当の活動や大学生の研究協力をを行い、若い世代に向けて子育て支援の意義について伝えることができた。

(課題)

- ・コロナ禍で、活動が変化していく子育てサロン、子育てサークルなどの活動状況を随時把握し、担い手たちのニーズに合った支援を継続する。
- ・拠点が、当事者を支援するだけでなく、当事者自身が持てる力を生かして活躍する機会をともに作っていく。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼理由を分析し、リフレッシュのための利用を促進し、理由の如何にかかわらず依頼できることをさらに広く手厚くPRする。 ・周知をさらに広げ、提供会員の獲得に努めていく。 	B	A
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	A
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	B

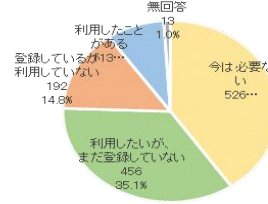
評価の理由(法人)

(主なデータ)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1 利用会員登録者(外国人家庭登録者) /人	809	948	1,012 (46)	957	925
2 提供会員登録者(外国人家庭登録者) /人	125	133	130 (0)	133	113
3 両方会員登録者(外国人家庭登録者) /人	53	59	53 (0)	50	51
4 事前打合せ/件	162	231	242	118	155
5 ひろば預かり/件	120	175	298	80	123
6 活動/件	3,600	3,529	3,821	1,956	2,201
7 リフレッシュのための利用活動/件	212	177	346	148	165
8 周知のためのチラシ配布/枚	58,050	35,100	55,030	4,840	4,900



横浜子育てサポートシステムの認知



横浜子育てサポートシステムの利用経験

1 多くの区民の参画を促す活動

○拠点のネットワークの広がりから、活動への理解が深まった。

・提供会員獲得のため周知活動を継続した。

・親と子のつどいの広場では、スタッフが提供会員になり、つどいのひろばでの預かり活動が盛んになった。

・子育て支援者や主任児童委員の定例会に出席し、会員や活動が地区ごとに偏りがあることを伝え、新規会員獲得のPRへの協力を得られた。

・横浜子育てパートナーと連携し、名刺型カードを作成することにより、相談と預かりの相互のニーズに応える情報提供ができるようになった。

○令和元年度実施の全区アンケート結果では、「知っている」の中で、「利用したいが、まだ、登録していない」が35.1%あったことから、入会説明会の参加や書類作成等、わずらわしさを少しでも軽減する工夫を実施した。

○拠点全体で妊娠期からの事業が充実し、周知の機会が広がったことで、妊娠期からの入会説明会の参加が増えてきている。

2 利用しやすい事業にするための活動

○拠点に足を運べない養育者へ向けて出張入会説明会を開催した。

○サテライトでの活動

・サテライト開所に伴い、近隣地区の登録希望者が増えている。そのため、入会説明会では説明会に託児を配置するなどの工夫をし、利用会員の増加につながった。

○平成29年度(サテライトは平成30年度)より、ひろばでのおためし預かりが始まり、その後の活動にも繋がっている。

○ひとり親、外国につながる方との活動においては、区と連携して丁寧にサポートした。

様式1-6 地域子育て支援拠点事業評価シート

- 緊急な依頼、配慮が必要な依頼などには、丁寧な聞き取りによりニーズを把握し、活動の提案を行った。
- ・ひろばスタッフと連携してニーズを把握し、養育者に寄り添ったサポートができた。相談から登録、活動につながるケースも増えている。
- ・リフレッシュ利用に関しては、横浜子育てパートナーと連携し、拠点の利用者、出張入会説明会参加者などに積極的にPRした結果、利用が増えた。
- ・第2子出産時の上の子の預かりのニーズが大変多く、活動につながり、出産後もひろばと連携してサポートができ、養育者の安心につながるケースも見られた。
- ・ひろば預かりをきっかけに、事業を知り、子どもが会員と楽しく過ごす様子に接することが、預かる事への抵抗、不安感の軽減につながっている。
- 事務局が市社協から区支部に業務移管(新規)
- ・18区全体で移管業務に取り組み、他区との連携が強まり、活発な情報交換が活動の広がりにつながった。様々な手続きが区支部で実施でき、事務手続きの簡便化につながり、会員との距離感がさらに近くなっている。

3 会員へのサポート

- 事前打ち合わせにコーディネーターが同席して、会員の生活様式等や災害時・個人情報等について会員双方と確認してコーディネートしている。
- 提供会員2名をサブリーダーとして継続委嘱し、緊急な依頼、対応に配慮を要する依頼の際に、中心となって活動してもらっている。
- 提供・両方会員間の交流会や活動の継続を援助できるようなスキルアップ研修を会員のニーズを把握しながら開催した。
- 子サポ通信を年3回発行し、交流会、研修会等の報告や、活動において注意が必要な事項の確認をした。
- 利用会員だけではなく提供会員へも、日頃の活動の様子を聞き取りすることで、登録継続につながった。
- 事務所開所時間外の活動に対応ができる緊急携帯があることが、提供会員の支えとなり、安心、安全な活動を提供できた。
- ネットワーク事業でつながった関係機関へ、講師派遣や施設見学を依頼をすることができ、会員が活動に活かせる情報提供ができた。

4 子育てサポートシステムを入り口とした支援へ

- 養育者のSOSを受け止め、区、横浜子育てパートナー等と連携して、預かり以外にも必要な社会資源につなげた。
- 第2子出産時のサポートを求める声が多いこと、育児のSOSが預かりニーズとして表れていること、などを毎月の定例会やスタッフミーティングで区に報告し、ネットワーク会議でも共有することができた。
- スタッフは、活動を含めスーパーバイザーによる検討会などに積極的に参加し、スキルアップを図っている。

評価の理由(区)

- 子サポの制度利用については、区の乳幼児健診等の事業や個別の相談で適宜対象者に案内し、利用を進めることができた。
- 運営事務局を担う拠点の運営上のフォローを随時行うことで、適切な執行を促すことができた。また、提供会員からの相談について必要時個別に合わせた対応につなげることができた。
- 子サポの提供会員向けの研修を行い、鶴見区の子育ての現状の共有や子育てに課題を抱えている方への対応方法等を伝えることができた。今後は、多様な課題に対する相談先を提供会員の方に知っていただくための取組が必要である。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・区と協力して、大規模イベント等でチラシの配布を行い、広く区民に周知することができた。拠点事業の充実より、妊娠期からの周知が強化できた。
- ・詳細な依頼の聞き取りとニーズに合ったコーディネートをし、丁寧な事前打ち合わせを行うことで、初回利用のハードルを下げ、継続的な活動につながった。

(課題)

- ネットワークを活かした周知活動をさらに進めて、全会員の獲得に努める。
- 説明会をオンライン開催するなど、今後も利用しやすい仕組みづくりの構築に努める。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができているか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
① 拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・横浜子育てパートナーの存在がどれだけ区民に認知されているかを、今後拠点についてのアンケートを取る際に確認していく必要がある。 また、区民への直接的なPRの機会として、新たに、母親教室(現在は母親・両親教室)や育児教室(現在は赤ちゃん会)でのPRを検討していく。 ・他機関連携をすすめ、相談の受け皿を広げていく。	A	A
② 相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③ 子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

○利用者支援活動(件)

	わっくんひろば				サテライト				合計			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
周知活動	65	63	54	66	45	47	33	45	110	110	87	111
研修参加	14	7	3	7	21	13	2	6	35	20	5	13
出張相談	32	90	56	73	85	86	49	82	117	176	105	155
電話相談	66	38	38	31	2	4	15	14	68	42	53	45
面接相談	318	422	437	536	484	471	411	563	802	893	848	1099
訪問先	48	62	47	33	62	65	30	40	110	127	77	73

1 子育てパートナーの周知活動

- ・拠点の初来所者に、相談専任のスタッフ「子育てパートナー」がいることを案内し、様々なイベントや地域の事業でもPRカードを配布して周知を行った。
- ・チラシを区役所、鶴見駅の連絡通路、関係機関で掲示している。また、PRカードを全保育園に送付し配架を依頼した。
- ・各関係機関や近隣の産婦人科を訪問し、事業説明を行うとともに、連携を依頼した。
- ・出張相談のPR活動を積極的に行い、(おたよりに毎号掲載、SNSで周知等)、事業の周知につなげた。

2 個別相談

○拠点内での相談

- ・相談者に対して、単なる情報提供だけではなく、心配事、悩み事を一緒に考えていくようにしている。
- ・継続対応も増え、子どもの成長とともに変化していく養育者の成長を支えている。
- ・拠点の他事業から子育てパートナーへの相談にもつながることも多く、多様なニーズのある親子に対して対応している。

○出張相談の実施

- ・親と子のつどいの広場や子育てサロンに訪問、事業説明や出張相談を行っている。
- ・商業施設や近隣区と毎月出張相談を実施している。育児支援イベントや拠点アウトリーチ事業に参加することで拠点から遠い地域の親子に出会える機会となり、拠点の利用にもつながっている。

○関係機関との相談連携

区や関係機関との連携を深め情報交換を行っている。この情報や研修での学びを拠点全体で共有することでスキルアップに努めている。

3 地域連携

○関係機関との連携の強化

- ・出張事業により、地域の特徴に合わせた育児支援を考えるきっかけになっている。
- ・育児支援イベント、園庭開放訪問で情報収集を行い、拠点利用者に伝えたことで園庭開放に訪れる親子が増え、保育園との連携が深まった。

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

○利用者支援事業を通じた新たなネットワークの構築

- ・拠点などの公共機関を利用しない養育者とアクセスするために、商業施設と連携を深めている。
- ・関係機関と連携し、ピアサポート事業「未熟児の母の会」「ダウン症児親の会」の継続援助や新規事業「発達が気になる子の親のつどい」の立ち上げを行った。
- ・相談者からのニーズから必要とする情報を検討し、関係機関に周知した。

4 妊娠期から切れ目のない支援（新規）

- 母子保健コーディネーターと毎月定例会で連携を深め、双方の事業理解に努めている。
- 周知により妊婦の利用が増え、相談対応や情報提供に努めた。必要な妊婦には、区と連携して対応し、産後の相談にもつながっている。

評価の理由（区）

- 妊娠期からの支援強化のため、母子保健コーディネーターとの定例会を通じて利用者支援に関する課題の共有を行うことができた。
- 育児教室、乳幼児健診、個別支援の中で対象者のニーズを踏まえ、利用者支援を促すことができた。ただし、実態として子育てパートナーがどの程度認知されているかは未把握であるため、今後実態を踏まえた取組を検討していくことが必要である。
- 鶴見区子育てネットワーク会議を通じて、地域や関係機関との顔の見える関係づくりはできているが、ネットワーク機能を活用した具体的な利用者支援については、今後検討が必要がある。

拠点事業としての成果と課題

（成果）

- ・関係機関や地域との連携に尽力したことで、子育て支援関係者への周知ができ、地域との関係が深まった。
- ・区と拠点で相談への対応を振り返り、多角的な視点での支援につなげた。

（課題）

- ・今後も、拠点内外での対応や連携の中で必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげる。
- ・行政や関係機関の情報をタイムリーに利用者に伝え、区と利用者支援が連携しながら適切な対応に努める。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 区と拠点で、重点目標や役割分担表に立ち返りながら、各事業を実施することができた。さらに、年間の具体的なスケジュールや役割分担も共有できるシートとして見える化し、事業の進捗管理を行うことができた。
- ネットワーク機能は、あらゆる事業に関連し、中長期の視点を踏まえて各年度の取組を計画的に実施するため、数年後のあるべき姿を両方で共有しながら、当該年度のネットワーク会議を計画することができた。

【今後改善が必要と思われること】

- 毎年、PDCAサイクルを意識し、効果的・効率的に事業展開ができるよう、年間計画の中にあらかじめ、「振り返りの時期」や「次年度計画を十分に検討する」時期を明記しておく必要がある。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- あらゆる関係機関が、同じ目標や課題を認識し、日々の取組に従事できるよう、ネットワーク会議を計画していくことが重要である。

【今後改善が必要と思われること】

- 新たな担い手の確保が課題であり、既存事業の関わりから繋げていく視点をさらに強化していく必要がある。
- コロナ禍のため、担い手同士の情報交換の機会が減少しているため、コロナ禍でも推進・共有できる体制を検討していく必要がある。
- アウトリーチ事業は、拠点を利用していない層や拠点から遠いエリアのニーズを把握するという視点も併せ持つ必要がある。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 事業全体の振り返りは、あらかじめ書面で複数回やり取りをしたうえで、当日議論するポイントを絞り、意見交換ができたため、限られた時間で、建設的に意見交換をすることができた。

【今後改善が必要と思われること】

- 情報の集約と発信については、多言語対応も含めて、必要な内容を必要なタイミングで伝えられるよう、発信の仕方について、整理・検討を行う必要がある。